



《現状把握》

国語A：主として知識に関しては、全国正答率と3.8%の開きがあった。言語に関する内容については漢字の書き問題で無回答率が高い結果が出た。「書くこと」に関して一定の条件下で文章化の中で考えを明確に示せなかったり、うまく文章に表せなかったりした。算数では、全体的に成績中間層が多くを占め、少人数指導を通じて基礎・基本の力がついてきていることがわかった。B：活用については、全国平均から4.9%開きがあり、数学的な考え方を身につける必要があると考える。

《授業改善のポイント》

- 国語
  - ・漢字の基礎・基本の定着を図る。
  - ・週1回の朝作文の時間を活用し、自分の思いや考えを進んで書くことができるようにする。
  - ・国語辞典を日常的に活用する。
  - ・意見文や随筆など、各活動をあつかう単元の重点化を図る。
- 算数
  - ・少人数指導を通して、基礎・基本の定着を図る。
  - ・授業の中で既習事項を復習する時間を確保する。新しい学習のときにも、既習事項を生かして自力で問題解決ができる児童を目指す。
  - ・週1回、放課後補習教室「一之江タイム」を行う。基礎・基本の理解が不十分な内容の定着を図る。

《チャートの特徴》

学力面に関して、算数の関心は全国平均を少し上回る結果(+1.02%)となった。しかし、国語の関心については、全国平均を下回る結果になった。また、家庭での学習習慣(家庭での予習・復習)が大きく下回っている。同様に、自尊感情(自分や友だちの良さを認め互いを尊重する気持ち)が低い。その中で、生活習慣(早寝、早起き、朝ご飯)の項目については全国平均を上回った。

《家庭・地域への働きかけ》

学校で学習したことが習熟できるよう、家庭学習を計画的に出す。テスト結果をまとめ家庭に返すことで、学校と家庭とが連携して児童の学習の様子を確認していく。